

### 110 <sup>123</sup>I-BMIPP心筋イメージング初期像-後期像の比較

森田雅人、成瀬 均、山本寿郎、福武尚重、宮城順子、川本日出雄、大柳光正、岩崎忠昭（兵庫医大一内）  
福地 稔（同核）

<sup>123</sup>I-BMIPP心筋イメージングにおいてfill-inやwashoutのように初期像から後期像にかけて変化する症例を観察する目的で急性心筋梗塞15例に対して視覚的、及びwashout rate(WR)を用いた定量的な検討を行った。その結果180segment中fill-inは8segment(4%), washoutは24segment(13%)にみられた。発症から撮像までの日数とfill-in及びwashoutの頻度には特に関係がなかった。fill-inのsegmentにおけるWRは $9.0 \pm 16.6\%$ であり、washoutのsegmentは $24.9 \pm 18.1\%$ と対照群 $8.7 \pm 15.4\%$ に較べ高値であった。WRはBMIPPの後期像における変化を詳細に観察するのに有用であった。

### 111 虚血性心疾患における<sup>123</sup>I-BMIPP心筋シンチグラフィ - <sup>201</sup>Tl心筋シンチグラフィとの比較-

秋岡 要、山岸広幸、板金 広、谷 知子、大村 崇、柳 志郎、錦見俊雄、葭山 稔、戸田為久、寺柿政和、竹内一秀、武田忠直（大阪市立大学第一内科）

越智宏暢（同核医学教室）

虚血性心疾患12例に、BMIPP、TlCl1同時収集安静時心筋SPECTを行った。初期像、後期像ともAHA分類に準じた7区域に対して、4段階に半定量評価し、severity score(SS)を算出した。また左室造影所見より壁運動を4段階に評価した。不安定狭心症、急性心筋梗塞症(発症1ヶ月以内)では、8例中6例で初期像、後期像ともにTl像よりBM像の方が欠損は大きかった。陳旧性心筋梗塞症ではほぼ同じSSを示した。左室機能(LVEF)や局所壁運動との相関はTl像よりBM像で強かった。Tl像とBM像の対比によりstunned myocardiumの評価の可能性が示唆された。

### 112 <sup>123</sup>I-BMIPPシンチグラフィによるPTCA症例の検討

井上 亨、三浦裕司、三ツ浪健一、木之下正彦（滋賀医大一内）鈴木輝康、森田陸司（同放射線科）

PTCA前後で<sup>123</sup>I-BMIPP（以下(B)）シンチと<sup>201</sup>Tl（以下(T)）心筋シンチを行い、PTCA前後の脂肪酸代謝の変化について検討した。対象はPTCAが施行され、成功した虚血性心疾患5例で、PTCA前後一か月以内に安静(B)と安静(T)のSPECTを施行した。(B)が(T)より集積低下が強い例は、PTCA前3例に対しPTCA後は5例になった。(T)ではPTCA後9部位で集積の改善がみられ、PTCA後悪化した例はなかったが、(B)ではPTCA後集積低下が強くなった例が2例3部位に、集積低下の改善は1例1部位にみられた。PTCA後早期ではPTCAが成功し血流が改善しても、脂肪酸代謝が低下する症例もあることが示された。

### 113 急性心筋梗塞における<sup>123</sup>I-BMIPP心筋イメージング(冠動脈所見、<sup>99m</sup>Tc-PYPとの比較)

森田雅人、成瀬 均、山本寿郎、福武尚重、宮城順子、川本日出雄、大柳光正、岩崎忠昭（兵庫医大一内）  
福地 稔（同核）

急性心筋梗塞11例に対して<sup>123</sup>I-BMIPP心筋イメージングを行ない、冠動脈造影所見、<sup>99m</sup>Tc-PYPとの比較を行なった。梗塞責任血管の灌流部位および<sup>99m</sup>Tc-PYPに相当する部位にBMIPPの欠損がみられた。しかしながら逆にBMIPPの欠損は必ずしも梗塞部位を反映するとは言いえない場合もあった。梗塞責任血管が左前下行枝近位部である症例に限ってみるとBMIPPの集積低下はすべてのsegmentに出現し得た。また左前下行枝の一枝病変であるにもかかわらず、心基部の下壁にも集積低下をきたす場合もあり、以上より急性心筋梗塞におけるBMIPPの欠損の解釈には注意を要すると思われた。

### 114 急性心筋梗塞における<sup>123</sup>I-BMIPP心筋イメージング(<sup>201</sup>Tl心筋シンチ、局所壁運動との比較)

宮城順子、成瀬 均、山本寿郎、森田雅人、福武尚重、川本日出雄、大柳光正、岩崎忠昭（兵庫医大一内）  
福地 稔（同核）

急性心筋梗塞11例に対して<sup>123</sup>I-BMIPP心筋イメージングを行ない、左室心筋を12segmentに分けて、<sup>201</sup>Tl心筋シンチ、心エコーによる壁運動(WM)との比較を行なった。BMIPPとTLは $\tau=0.82$ ,  $p<0.001$ で相関があったが、BMIPP-TL間の乖離はTLよりBMIPPの欠損程度がより著明である症例が多かった。亜急性期におけるBMIPPと同時期のWMの比較では $\tau=0.50$ ,  $p<0.001$ で相関があった。BMIPP-WM間の乖離はBMIPPの欠損が著明であるにもかかわらず、WMが比較的良好である場合に多く見られた。BMIPPとTLの乖離例においてその程度は急性期から回復期にかけてのWMの改善と関連がある可能性が示唆された。

### 115 虚血性心疾患におけるI-123 BMIPPとTl-201の解離と局所壁運動との関係

俵原 敬、倉田千弘、岡山憲一、田口貴久、青島重幸、小林 明、山崎 昇（浜松医科大学第三内科）

虚血性心疾患症例7例におけるBMIPPとTlの解離と局所壁運動との関係について、dual SPECTと左室造影所見を比較し検討した。運動負荷時像ではBMIPPとTlの所見が良く一致するのに比し、安静時像では36%にBMIPPとTlの解離が認められ、そのパターンのほとんどはTl>BMIPPであった。そして、この解離は局所壁運動の低下した領域で高頻度に認められた。

虚血性心疾患において、運動負荷時よりも安静時でタリウム像とBMIPP像の解離が多く認められた。この解離は局所壁運動の低下と関連があった。